

## 特別支援学校（知的障害）に在籍する小学部児童への 「学習指導要領評価表」を活用した目標設定と評価に関する検討 —生活単元学習を中心に—

### A Study on the Setting Objectives and Evaluation for Elementary Grade Students with Intellectual Disabilities: Through the Use of Evaluation Charts Based on The National Curriculum Standard for Special Needs Education Schools

加賀谷 紀\*・奈良岡 孝 信\*・木 村 亮\*・天 海 丈 久\*\*  
Michi KAGAYA, Takanobu NARAOKA, Ryo KIMURA, Takehisa AMAGAI

#### 要旨

本実践では、特別支援学校（知的障害）で学ぶ小学部第2学年の児童を対象に、「学習指導要領評価表」を用いた各教科等を合わせた指導における目標設定及び評価について検討した。その結果、生活単元学習の授業を計画するにあたり、学習指導要領における各教科等の児童の目標を明確におさえて、単元内での題材毎の教科構成やねらいを整理することができた。また、「学習指導要領評価表」の年計記載欄にある略記（指導内容と項目）を個別の諸計画に記載するなど様式間で連携を図ることで、作成した個別の諸計画と学習指導要領との関連を可視化できる仕組みを作れる可能性が示唆された。一方で、「学習指導要領評価表」を実践後の評価ツールとして使用することについては、指導事項のまとまりの大きさから、一定期間が必要であることが確認された。

キーワード：知的障害教育課程，各教科等を合わせた指導，学習指導要領評価表

#### I はじめに

A特別支援学校は知的障害の特別支援学校で、小学部・中学部・高等部（普通科）があり、いずれも知的障害の教育課程を編成している。そのうち、小学部は複式学級で編成されており、第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年となっている。

兼ねてより知的障害教育においては、小・中学校、高等学校での教育と比べ、教育課程を編成する際の根拠や目標設定及び評価が曖昧であることが指摘されている。また、各教科等を合わせた指導の目標設定及び評価では、学習指導要領における各教科等の指導内容が明確に整理されないまま授業を実施していることが多い。A特別支援学校では前年度の年間指導計画や個別の指導計画の評価及び学習指導要領を参考に、児童生徒の実態に応じて、年度始に諸計画を作成しているが、学習指導要領の指導内容に沿って、児童生徒の学習評価の積み重ねを可視化することは行っていない。児童生徒の学習評価の積み重ねを可視化することは、児童生徒の学習状況を的確な把握、目標設定につなげることができる。指導と評価の一体化の側面からも、学習評価の積み重ねを可視化することは重要であると考えられる。

そこで本研究では、小学部第2学年の知的障害のある児童1名を対象に、「学習指導要領評価表」を用いて、各教科等の年間指導計画及び個別の指導計画の作成、授業計画作成及び授業実践を行い、これらの過程における「学習指導要領評価表」の有用性について検討することとした。

---

\* 弘前大学教育学部附属特別支援学校 School for Special Needs Education Attached to the Faculty of Education, Hirosaki University

\*\* 弘前大学教育学部 Faculty of Education, Hirosaki University

「学習指導要領評価表」とは、2019年度～2021年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)JP19K02902, 研究代表者 天海丈久）の助成を受け、研究協力者である15名の特別支援学校教員により作成された、各教科（知的障害）等の目標の検討を容易にし、学習の積み重ねが可視化できる個別の指導計画作成のためのツールである。「学習指導要領評価表」は、各教科（知的障害）、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、自立活動について、小・中学部、高等部の12年間の学習の積み重ねが可視化できるよう、また連続性の観点から、各教科等ごとに小学部（1・2・3段階）、中学部（4・5段階とした）、高等部（6・7段階とした）の目標及び内容が電子化されてまとめられている。また2020年に文部科学省から公表された、学習指導要領コードも転記されている。「学習指導要領評価表」のシートは、「内容」等欄、学習指導要領の項目が転記されている「項目」欄、個別の指導計画に記載しやすいように内容等や項目が略記されている「年計記載」欄、「学習指導要領コード」欄、指導事項が記載されている「事項」欄、対象児童生徒がその該当事項を選択する場合に丸を付ける「選択」欄、「評価」欄（観点別）、「総合評価欄」で構成され、評価は案として、達成の場合は○印を、未達成の場合は△印を記入するようにし、総合評価は各学校で工夫して記入することとされた（表1）。

表1 「学習指導要領評価表」（一部抜粋）

令和	年度	学級	年	氏名						
○：達成 △：未達成 ●：その年度に選択しているもの										
<b>生活</b>										
【目標】 具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。										
(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。										
1段階	ア	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。								
2段階	ア	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。								
3段階	ア	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。								
(2) 自分自身や身の回りの生活のことで、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。										
1段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことで、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。								
2段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことで、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを表現しようとする。								
3段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことで、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。								
(3) 自分のことに取り組みたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。										
1段階	ウ	自分のことに取り組みしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする態度を養う。								
2段階	ウ	自分のことに取り組みしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとする、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとする態度を養う。								
3段階	ウ	自分のことに取り組みしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。								
教科	内容	項目	年計記載	学習指導要領コード	事項	選択	評価			
生活	基本	1-(7)	生活1(7)	88783-021100000	簡単な身の処理に気付く。物ごとと一緒に行動しようとする。					
		2-(7)	生活2(7)	88783-021100000	必要な身の処理が分かる。身近な生活に自立しようとする。					
		3-(7)	生活3(7)	88783-021100000	必要な身の処理や集団での基本的な生活習慣が分かる。日常生活に自立しようとする。					
		1-(8)	生活1(8)	88783-021200000	簡単な身の処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。					
		2-(8)	生活2(8)	88783-021200000	身近な生活に必要な身の処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。					
		3-(8)	生活3(8)	88783-021200000	日常生活に必要な身の処理等に關する知識や技能を身に付けること。					
※小学部については、保健体育科(II 保健)、高等部については、保健体育科(I 保健)を参照。										

## II 目標設定の手続き

### 1 従来の目標設定

A 特別支援学校で作成している計画は以下の3つである。

#### (1) 「個別の教育支援計画」

- ・長期目標（3年間）及び短期目標（1年間）を作成
- ・実態把握、諸検査結果、学部検討、本人・保護者ニーズをもとに各目標を決定

#### (2) 「各教科等の年間指導計画（学級・学習グループ）」（表2）

- ・学級、学習グループ単位で作成
- ・作成内容（小学部の場合）

日常生活の指導、生活単元学習、遊びの指導、国語科、算数科、図画工作科、音楽科、体育科、特別活動、自立活動

- ・自立活動のみ個別で作成（表3）

#### (3) 「個別の指導計画」（表4）

- ・前期・後期で作成し、評価の観点に沿って重点目標を1つ設定
- ・評価の観点（育成すべき資質・能力の3つの柱）

- A：知識・技能
- B：思考力・判断力・表現力等
- C：学びに向かう力，人間性等（主体的に学習に取り組む態度）

・評価の基準

◎：達成できた ○：継続した学習が必要

- ・各教科等の年間指導計画の題材（単元）と関連させて具体的な目標で記載
- ・作成内容（小学部の場合）

日常生活の指導，生活単元学習，遊びの指導，国語科，算数科，音楽科，図画工作科，体育科，特別の教科 道徳，特別活動，自立活動

- ・保護者への通知表も兼ねている

諸計画作成について，まず「各教科等の年間指導計画」で年間の目標や題材を設定し，その内容をもとに一人一人の個別目標を検討する。その後，個別目標をもとに「個別の指導計画」の〔重点目標〕を決定する。A特別支援学校の場合，「個別の指導計画」は通知表を兼ねている。保護者へ分かりやすく伝えるため，各教科等で設定した個別目標を全て記載するのではなく，〔重点目標〕のみ記載することになっている。通知表の記載内容は保護者への伝わりやすさが求められるため，教員が設定している個別目標及び評価と比べ文言や表現の仕方が異なる場合がある。特に各教科等を合わせた指導の〔重点目標〕では各教科の目標をそのまま記載すると保護者に学習活動のイメージが伝わりにくいことが想定されるため，「個別の指導計画」では単元・題材に沿った活動の文脈で記載している。

表2 各教科等の年間指導計画（一部抜粋）

弘前大学教育学部附属特別支援学校							
教科等	〇〇	学習グループ	〇〇学前期〇学年	指導者	〇〇, ΔΔ	児童生徒氏名	
目標	*						
配慮事項	*						
月	題材(単元)名	主な学習内容		予定時数	実施時数		
通	「〇〇〇」	・〇〇〇・ΔΔΔ・□□□□		前期	後期	前期	後期
年	「ΔΔΔ」	*					
4							
5							
6							
7							

表3 自立活動の年間指導計画（一部抜粋）

弘前大学教育学部附属特別支援学校							
学部・学年	部第 学年	児童生徒氏名		作成者		実施	◎◎◎◎の状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所、課題等)
重点目標							
①							
②							
重点目標を達成するための必要項目							
観察の項目	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体が動き	コミュニケーション		
①		①	①	②	③	④	
①の目標に関する事項			②の目標に関する事項				
主体的な学習内容							
目的意識							
姿勢習慣							

表4 個別の指導計画（一部抜粋）

弘前大学教育学部附属特別支援学校				
学部・学年	小学部第 学年	児童氏名		学習の様子
【目標の分類・設定の原則】 A:知識・技能 B:思考力・判断力・表現力等 C:学びに向かう力・人間性等 (主体的な学習に取り組む態度) 【目標の達成】 ◎:達成できた ○:継続した学習が必要 ※学習指導要領の目標を参考にし、しっかりと達成しなくてはならない				
題材(単元)名	重点目標		評価	学習の様子
日常生活の指導	A			
	B			
	C			
生活単元学習	A			
	B			
	C			
国語科	A			
	B			
	C			
音楽科	A			
	B			
	C			

## 2 「学習指導要領評価表」の手続きを加えた目標設定

図1は従来の計画作成手順に「学習指導要領評価表」の手続きを加えた内容を示したものである。本事例では従来の計画作成の前段階で「学習指導要領評価表」を用いた。この段階での使用は学習指導要領上の評価を目的としている。

ここで従来の学習指導要領のみの評価と比較すると、「学習指導要領評価表」を使用したことで、各教科等の児童の実態が可視化され、実態の全体像を容易に把握できるようになった。また、指導内容が各教科の内容・項目内で系統的に記載されているため、目標設定時に先々の内容を見据えて考えることができた。

対象児童は各教科でおおよそ第2段階の実態にあるが、教科内の項目によっては第1段階、第3段階であった。「学習指導要領評価表」を用いた実態把握により、このような個人内での習熟度の差も見渡すことが容易となり、目標を検討する上で有用であった。

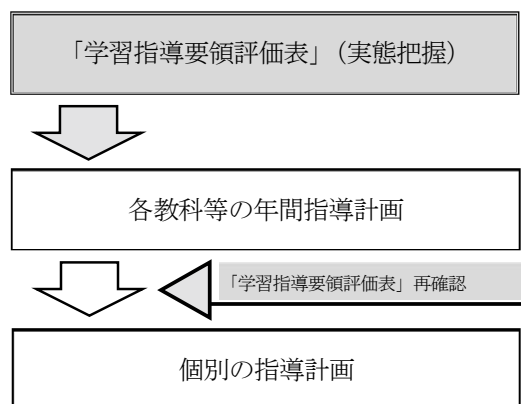


図1 「学習指導要領評価表」の手続きを加えた目標設定

## III 授業の実際

### 1 対象児童について

対象児童は小学部第2学年の男子児童1名である。A特別支援学校小学部の教育課程を次に示す(図2)。

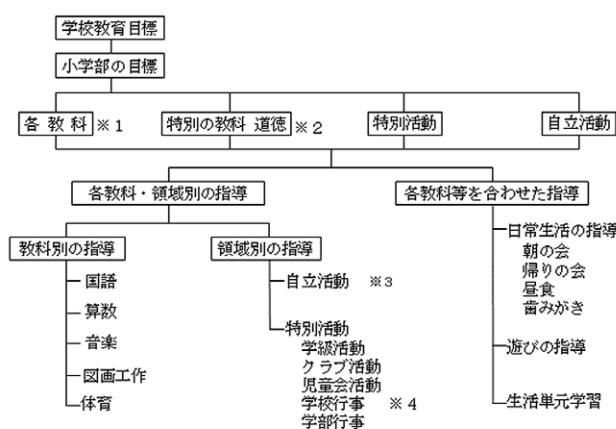


図2 A特別支援学校小学部の教育課程

※1 生活科, 国語科, 算数科, 音楽科, 図画工作科, 体育科, 生活科は, 遊びの指導, 生活単元学習, 日常生活の指導の中で指導する。

※2 特別の教科 道徳は, 各教科等を合わせた指導に位置付けて指導を行う。

※3 自立活動は, 時間を特設して行うほか, 必要に応じて教育活動全体を通して指導を行う。

※4 儀式的行事, 文化的行事, 健康安全・体育的行事, 旅行・集団宿泊的行事, 勤労生産・奉仕的行事。

### 2 単元構成及び目標設定について

本事例の授業実践は生活単元学習で行った。今年度の生活単元学習は特別支援学校小学部学習指導要領生活科, 国語科, 算数科, 図画工作科, 音楽科, 道徳科, 特別活動, 自立活動で構成した。主な単元は次のとおりである。

通年	「野菜を育てよう」「みんなでかけよう」
前期	「花を育てよう」「お祭りをしよう」「夏を楽しもう」「誕生会をしよう」
後期	「秋を楽しもう」「収穫した野菜で作ろう」「冬を楽しもう」 「学習発表会をしよう」「卒業生を送る会」「誕生会をしよう」

生活単元学習の単元内容は対象児童だけでなく, 学級の全児童の実態を踏まえて決定した。内容は児童生徒の興味関心や生活文脈に即したものを中心に取り上げて構成している。

「個別の指導計画」には学習活動で取り組む課題や役割意識及び集団学習における学習態度等に視点を置き, 保護者へ具体的な学習のイメージが伝わりやすいように活動の文脈に沿った表現で記載している(表5)。

A特別支援学校では「個別の指導計画」は通知表を兼ねている。そのため記載されている目標と実際に教員間で共有している目標とは表現が異なっている場合がある。

表5 対象児童の個別の指導計画（左：前期，右：後期）

生活単元学習	「野菜を育てよう」 「みんなで出かけよう」 「学級目標を作ろう」 「花を育てよう」 「誕生日会をしよう」 「お祭りをしよう」 「夏を楽しもう」	A	・制作活動では、身近な道具を使って手順通りに行うことができる。	生活単元学習	「誕生日会をしよう」 「秋を楽しもう」 「野菜で作ろう」 「冬を楽しもう」 「学習発表会を成功させよう」 「卒業生を送る会の準備をしよう」	A	・ピーラーの使い方が分かり、安全に気を付けて皮むきを行うことができる。
		B	・野菜や花の観察を通して分かったことや感じたことを、教師や友達に伝えることができる。		B	・買い物学習では、決められた品物を店内から探し出し、買うことができる。	
		C	・自分の役割を果たし、周囲の様子を気に掛けながら活動に取り組もうとする。		C	・自分の役割を果たし、周囲の様子を気に掛けながら活動に取り組もうとする。	

### 3 実践授業について（単元「学習発表会をしよう」 授業「台詞を考えて練習しよう」）

実践授業は単元「学習発表会をしよう」で行った。本単元は特別支援学校小学部学習指導要領生活科，国語科，図画工作科，音楽科，特別の教科 道徳，特別活動で構成している。対象児童の本単元に関わる「学習指導要領評価表」の実態を下記に示す。なお，下記表は「学習指導要領評価表」にある項目に沿って以下の様式で作成している（表6）。

表6 単元「学習発表会をしよう」における対象児童の実態

記入様式

教科名		
内容・ （道）視点・ （特）各活動等	項目	事項・（道）* <sup>1</sup> 内容項目・（特）* <sup>2</sup> 内容

児童の実態

生活科（役割）		
役割	3-(ア)* <sup>3</sup>	様々な集団活動に進んで参加し，簡単な役割を果たそうとすること。
	3-(イ)	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
国語科（知識技能）（聞くこと・話すこと）（書くこと）（読むこと）		
知識技能	3-ア-(イ)	姿勢や口形に気を付けて話すこと。
聞くこと 話すこと	2-A-イ	簡単な指示や説明を聞き，その指示等に応じた行動をすること。
	3-A-イ	経験したことを思い浮かべ，伝えたいことを考えること。
書くこと	2-B-ア	経験したことのうち身近なことについて，写真などを手掛かりにして，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。
	3-B-ウ	見聞きしたり，経験したりしたことについて，簡単な語句や短い文を書くこと。
	3-B-エ	書いた語句や文を読み，間違いを正すこと。
読むこと	2-C-ア	教師と一緒に絵本などを見て，登場するものや動作などを思い浮かべること。
	2-C-イ	教師と一緒に絵本などを見て，時間の経過などの大体を捉えること。
	3-C-イ	絵本や易しい読み物などを読み，時間的な順序など内容の大体を捉えること。
	3-C-エ	登場人物になったつもりで，音読したり演じたりすること。
図画工作科（表現）		
表現	2-ア-(ア)	材料や，感じたこと，想像したこと，見たことから表したいことを思い付くこと。
	2-ア-(イ)	身近な材料や用具を使い，かいたり，形をつくったりすること。
音楽科（器楽）		
器楽	2-イ-(ア)	器楽の表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。
道徳（主として自分自身に関すること）（主として集団や社会との関わりに関すること）		
1・2年	道A希12(5)* <sup>4</sup>	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
	道C規12(10)* <sup>5</sup>	約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。 【幼】* <sup>6</sup> 【配（小）：社会生活上のきまりを守る】* <sup>7</sup>



今年度の学習発表会は、小学部全体で演劇を行った。『あつまれどうぶつの森』の世界観をベースに、「自分たちの森を〇〇にする」という物語設定を教員が提案し、ストーリーに沿って児童は演じるキャラクターを自分で決め、台詞を考えた。エンディングでは音楽科で学習したハンドベル演奏を披露した。対象児童は『あつまれどうぶつの森』に出てくるゴリラに扮することを決め、発表シーンで登場する鬼を体育科で学習したティーバッティングで倒す役割を演じた。

表 8 学習指導略案

生活単元学習 学習指導略案	
対象児童	対象児童、ほか4名（小学部第1学年1名、第2学年3名）
授業名	「台詞を考えて練習しよう」
児童の実態	対象児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に応じて、自らやりたいことや楽しみなことなどの思いを抱き、期待感をもって学習に取り組んでいる。</li> <li>各教科で学習したことを活動場面で取り入れようとする。</li> <li>学習場面では、これまでの経験をもとに指示とは異なる行動をすることはあるが、説明や指示に視覚的な提示を併用することで正しく理解したり修正したりすることができる。</li> <li>ものづくりではデザインや色使いなど例示したものを真似て作品を作ることが多いが、友達の様子に興味をもち、表現などを模倣することもある。</li> <li>ゲーム場面は勝ちにこだわることもあり、不適切な言動はないが、気持ちが昂ったり負けを引きずったりすることがある。</li> <li>学習活動の中でやりたいことが友達と重なる場面で、自ら譲ることは少ないが、事前に役割分担の話し合いの場があると譲る場面が見られてきている。</li> </ul>
学習指導要領評価表との関連	生活科：様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。 国語科：発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。 道徳科：自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
本時の目標	対象児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら台詞を工夫したり動きを付けたりする。（国語科）〔知識・技能〕〔思考・判断・表現等〕</li> <li>友達と協力してグループ練習を行おうとする。（生活科）〔主体的に学習に取り組む態度〕</li> </ul>
本時の評価	対象児童 ①自分で台詞を考えて伝えることができたか。（国語科）〔知識・技能〕 ②演じる動物になりきって動きをつけて台詞を話すことができたか。（国語科） 〔思考・判断・表現〕 ③友達の演じる様子を見て声をあわせて台詞を話したり応援したりしたか。（生活科） 〔主体的に学習に取り組む態度〕
指導の展開	学習活動 指導上の手立て・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ</li> <li>○本時の学習の確認</li> <li>○本時の目標</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんのやくをおもいだそう</li> <li>・セリフをかながえよう</li> <li>・「うつ」れんしゅうをしよう</li> </ul> </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の役を思い出す                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド画面に沿って台詞の練習をする</li> </ul> </li> <li>○台詞を考える                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の台詞に言葉を付け足す（評価①②）</li> <li>・鬼を倒した後の気持ちを考え、台詞を足す（評価①②）</li> <li>・セリフの読み合わせをする（評価③）</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画面への注目を促す。</li> <li>・気持ちを込めて話すよう促す。</li> <li>・活動や台詞に合わせて簡単な動作化を促す。</li> <li>・児童の実態に沿って教員の後に続いて一緒に読んだりするなどの支援をする。</li> <li>・友達の考えを参考にしながら自分の台詞を付け足して良いことを伝える。</li> <li>・鳴き声や動きなどのアイデアが出てきたら全体に共有して自ら工夫しようとする気持ちを促す。</li> <li>・全員でスライド画面を見ながら台詞を付け足したり変えたりしていく。</li> <li>・出てこないときは友達同士でアイデアを出すことを促したり教員が直接支援したりする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「打つ」練習をする</li> <li>・必殺技の名前を考える（評価①）</li> <li>・ボールをよく見て、的めがけて打つ（評価③）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の名前を話してから打つように促す。</li> <li>・児童がバットを振る位置に合わせてボールのセッターを調整する。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返り</li> <li>○次時の学習の見通しをもつ</li> <li>○あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セリフや動きを工夫していたところを称賛する。</li> <li>・次の学習でがんばることを予告する。</li> </ul>

#### 4 「学習指導要領評価表」を使用した授業実施後の所感

単元の教科構成を整理したことで、単元内の各授業で目標や活動内容の設定をこれまでより焦点化して行うことができた。そのことで、授業における教員の発問や言葉掛け、支援等のアプローチの方針がより明確となり、下記のような対象児童の姿を引き出すことができたと捉えている。

〔学習活動：台詞を考える〕

- 鬼を倒した後の気持ちの台詞と表現を自分で考える。
  - ・「おにをやっつけたぞ～ うほっ（胸をたたく）」
- 友達を真似て台詞の語尾に動物の鳴き声をつけたり、自発的に台詞に合わせた動きを付け足したりして練習する。
  - ・「ぼくたちのもりがおにだらけになってしまった～（胸をたたく）」
  - ・「ちくしょう、ぼくたちでおにをやっつけるぞ～ うほっ（胸をたたく）」

〔学習活動：「打つ」練習をする〕

- 役になりきり感情をのせて台詞や必殺技の名前を話し、バッティングをする。
- 自分の順番まで友達が演じている様子に注目し、笑顔を浮かべながら取り組む。

#### 5 学習評価について

「学習指導要領評価表」を通して単元構成や目標を整理したことで、個人内で生活文脈の視点を教科の視点で捉えなおす意識の流れが促進され、スムーズに各教科等の評価につなげることができた。また、教科別の指導との繋がりが「各教科等構成一覧」や授業の目標設定時に具体的に記されるため、直接的に学習指導要領に即した評価の積み重ねができるようになった。

#### IV 評価と改善

本事例では「学習指導要領評価表」を①各教科等の年間指導計画及び個別の指導計画の作成段階、②授業計画作成段階で使用し、以下の場面で活用した。

使用段階	活用場面
①各教科等の年間指導計画及び個別の指導計画の作成段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>・各計画の目標設定</li> </ul>
②授業計画作成段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等を合わせた指導における単元の各教科等構成整理</li> <li>・本時の授業の各教科等の構成及びねらいの焦点化</li> </ul>

使用段階①では学習指導要領の事項が可視化されたことにより、全体像を把握しながら各計画の作成ができた。従来の学習指導要領のみを用いた計画作成時と比較すると、学習指導要領評価表があることで、経験則や印象などの主観に左右されることが少なくなり、チェックリストのように見落としを防ぎながら目標の検討を進めることができた。また、児童の習熟度のばらつきが可視化されたことで、学習指導要領における対象児童の実態の輪郭が明確となり、各教科内の得意不得意を把握することにもつながった。そのほか教科ごとに高等部までの内容が記載されているため、今後の指導展開の見通しをもちながら計画作成ができる利点があった。

使用段階②では各教科等を合わせた指導の単元構想の際、「学習指導要領評価表」にある項目の略記を用



いて「各教科等構成一覧」を作成した。そのことで段階を明確に示した状態で単元内の各活動の教科構成を整理・可視化することができた。また、本時の授業検討時に「各教科等構成一覧」を使用することで、前後の授業を踏まえた焦点化した目標設定をこれまでよりスムーズに行えた。さらに使用段階②では使用段階①で「学習指導要領評価表」を一度整理済みであるため、単元構成や目標設定をする際に学習指導要領の読み直し等にかかる時間の短縮を図れる利点もあった。

全体を通して「学習指導要領評価表」を使用することで、各教科等の内容に対する意識を一貫してもちながら、各教科等を合わせた指導の単元構成や目標を考えることができた。

一方で学習後の評価を「学習指導要領評価表」で実施することには検討の余地があった。「学習指導要領評価表」のみで学習後の評価を行うには、一定の期間が必要になることが理由である。運用場面では、最初に「学習指導要領評価表」で児童生徒の実態把握を行い、その後、各段階の目標を達成するため、各段階に内在する下位目標を具体的に設定する。一連の学習を通して下位目標が達成されても、年度内に段階の目標が達成されない場合、見た目は現状と変わらないことになる。そのため、到達の様子を適切に把握するためには「学習指導要領評価表」に加えて個別の諸計画や指導内容表などと組み合わせていく必要があると考える。

## V おわりに

本事例研究で指導計画及び授業計画作成時に「学習指導要領評価表」の使用による効果を確認することができた。今後の活用については次の二点を考えている。

一点目は個別の諸計画との様式上の連携である。諸計画に記載された目標に対して、「学習指導要領評価表」にある略記を追記することで学習指導要領との関連を明示できるとともに、教科の位置付けを整理して計画の作成ができるようになる。また、略記自体は、学習にかかわる様々なツールと学習指導要領との関連、連携を可視化できる仕組みを作れる要素となる。

二点目は他教員との共通理解場面での使用である。実態別小集団などを構成する際の判断材料として、また、引継ぎ場面での共通理解を促すツールとしての活用が想定できる。実際に今年度の引継ぎ場面で用いたところ、段階を示しながら具体的な指導内容や変容を伝えることができ、次の指導展開を系統的に伝えていくことができた。経年的な使用で効果や価値は広がっていくと考えられる。

学習指導要領が示す12年間の指導体系の中で、これまでの学習の積み重ねや今後の方向性を俯瞰的に把握したり、諸計画や学習教材などを関連付けたりできる有効なツールとして、今後も活用方法を検討していきたい。

## VI 倫理的配慮

本研究の実施に当たり、対象生徒の保護者に対し事前に説明を行い、事例発表や出版物への発表・掲載についての承諾を得るとともに、所属長からも同様の承諾を得た。

## 付記

本研究は、2019年度～2021年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)JP19K02902、研究代表者 天海丈久、研究課題名「知的障害教育の各教科等の目標を踏まえた特別支援学校の指導計画作成システムの構築」）の助成を受けて行った研究成果の一部である。また本研究は、日本特殊教育学会第59回大会自主シンポジウム64（オンデマンド配信）において話題提供を行った。

## 文献

佐藤貴宣・藤井和子（2016）特別支援学校における教師の教育課程に対する意識と影響要因. 特殊教育学研究, 54(5), 273-282.

下山直人（2016）肢体不自由教育における各教科等を合わせた指導. 肢体不自由教育, (223), 12-17.

和田充紀（2019）知的障害特別支援学校における教育目標と教育課程編成に関する現状：全国調査の結果から. 特殊教育学研究, 57(2), 95-103.

- 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領.
- 文部科学省 (2017) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領.
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領.
- 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領.
- 文部科学省 (2018a) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部). 開隆堂.
- 文部科学省 (2018b) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部). 開隆堂.
- 文部科学省 (2019) 特別支援学校高等部学習指導要領.
- 文部科学省 (2020) 特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料.
- 文部科学省 (2020) 小学校学習指導要領コード【82V10】バージョン1.0. 文部科学省, 2020年10月16日, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm) (2020年12月29日閲覧).
- 文部科学省 (2020) 中学校学習指導要領コード【83V10】バージョン1.0. 文部科学省, 2020年10月16日, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm) (2020年12月29日閲覧).
- 文部科学省 (2020) 高等学校学習指導要領コード【84V10】バージョン1.0. 文部科学省, 2020年10月16日, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm) (2020年12月29日閲覧).
- 文部科学省 (2021) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領コード【86V11】バージョン1.1. 文部科学省, 2021年3月18日, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm) (2021年3月18日閲覧).
- 文部科学省 (2021) 特別支援学校高等部学習指導要領コード【8BV11】バージョン1.1. 文部科学省, 2021年3月18日, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm) (2021年3月18日閲覧).